峡東地域教育情報誌１７４号（令和７年度１月号）
AREAWEB
令和８年１月１５日発行
峡東教育事務所
教育支援スタッフ（担当）
電話　0553-20-2731
Fax　0553-20-2733

子どもたちが安心して育つために
～発達の特性や心の傷つきから「戸惑いを感じる」言動を考える～

【令和7年度　峡東地域　人権のための講演会　11月25日（火）：甲州市民文化会館】

講師：山梨県立こころの発達総合支援センター 所長（小児神経科医）　後藤 裕介 氏

令和７年 11 月 25 日（火）、峡東地域で「人権のための講演会」が開催され、山梨県立こころの発達総合支援センター所長で小児神経科医の後藤裕介氏を講師に迎えました。子どもの行動の背後にある発達や心の仕組みについて、専門的な知見と豊富な臨床経験を交えて、丁寧でわかりやすい講演が行われました。

発達と経験が行動に影響

後藤氏は 20 年以上にわたり、小児神経科医として発達障害や情緒の課題に向き合ってきました。医療だけでなく、教育・福祉・行政が連携する支援体制の構築にも深く関わり、現在はセンター所長として、地域の子どもと家庭を支える取り組みを推進しています。

熱意ある講演を行う後藤先生

講演の冒頭では、子どもの一見「困った」と捉えられがちな行動には、発達特性、自律神経の反応、家庭環境、過去の体験など、複数の要因が重層的に影響していることが挙げられました。単純に「わざとやっている」「性格の問題」と捉えるのではなく、背景を理解することで初めて適切な関わりができると述べました。

さらに、「行動の裏には必ず理由がある」という視点を大切にすることが、大人に求められる基本姿勢だと強調しました。特に、発達特性のある子どもは意図せず周囲を戸惑わせる行動をとることがあり、それを“問題行動”と片付けてしまうと、子どもが本来持っている力を伸ばす機会が失われる可能性があると指摘しました。

有意義な講演を聴く参加者

脳は成長し続けている

講演では、子どもの行動を理解するうえで欠かせない脳の発達についても詳しい説明がありました。

脳は出生時から急速に成長し、幼児期に多くの神経回路がつくられ、その後は不要な回路が刈り込まれ、必要な回路が強化されていきます。特に前頭前野は 10 代後半まで成熟し続けるため、子どもが「衝動的に見える」「気持ちを切り替えられない」「約束を守れない」といった姿は、発達途上であるがゆえに自然なものだと説明しました。

こうした知識を大人が持つことで、子どもの行動に過度な期待をせず、適切なサポートができるようになると述べました。

感情は大人との関わりで育つ

赤ちゃんは初め、身体の不快感や緊張などの漠然とした感覚で世界を捉えています。そこから「悲しい」「怖い」「嬉しい」といった感情を理解し整理できるようになるのは、大人が気持ちを受け止め、言葉にして返す“情動調律”の積み重ねによるものです。

講演では、日常の小さなやりとりの例を挙げながら、「大人が気持ちを言葉にして返す関わりこそ、子どもの情緒的な成長の土台になる」と繰り返し語られました。

自律神経とストレス反応

明快なプレゼンテーションの講演

また、自律神経のしくみについて、イラストを用いながら非常にわかりやすく説明されました。強いストレス下では、人は「戦う」「逃げる」「固まる」といった反応を自動的に示します。過去のつらい経験を抱える子どもは、少しの刺激でも交感神経が過敏に働いてしまい、落ち着けない状態に入りやすくなります。

こうした子どもに接するときは、まず安心できる環境と信頼関係の回復が必要であり、「叱るより整えること」が大切だと強調しました。

子どもに寄り添うということ

講演のまとめとして後藤氏は、大人が“困った行動だけを見る”のではなく、“その裏にある子どもの気持ちや背景を見る”姿勢を持つことの大切さを語りました。日常の中での小さな寄り添い、成功体験の積み重ねが、子どもが自分を信じ、安心して成長していく力につながっていくと締めくくられました。

今回の講演は、子どもたちが安心して生きられる環境とは何か、私たち大人に何ができるかを改めて考える貴重な機会となりました。

心をひとつに、輝く学院祭　～ことぶき勧学院祭～

【ことぶき勧学院】

地域ごとの個性あふれる発表

異世代交流「甲府工業應援團」迫力の演舞

11 月 17 日（金）、YCC 県民文化ホールでことぶき勧学院祭が開催されました。発表は県内４地域のことぶき勧学院の１・２年生の１０クラス。日頃の活動の成果を披露する場として、各クラスがテーマを決め、合唱や踊り、太鼓、朗読など、特色ある発表を行いました。

甲府峡東地域の４クラスでは、踊りや歌、寸劇や手話など、バラエティ豊かな演目が並び、会場は笑顔と拍手に包まれました。

甲東 B2 年「踊りと寸劇」”狙いうち”

練習の積み重ねが生んだ一体感

発表に向けて、講義がない日も練習を設定し、衣装や小道具の制作も手分けして進めました。意見がぶつかる場面もありましたが、皆が真剣に考え、協力し合った結果、見事な舞台が完成。「やり終えた時の満足感は格別」「学生時代を思い出した」という声が生徒から聞かれ、達成感に満ちた笑顔が印象的でした。

甲東 A2 年「フラダンスと歌」ハワイへ誘う

甲東 A 1 年「手話コーラス」手話にﾁｬﾚﾝｼﾞ

甲東 B1 年「ｺｰﾗｽと踊り」坂本九ちゃんの曲から

生涯学習への一歩

今回の学院祭は、心豊かな学院生活の向上と、生涯学習へのつながりを目的としています。練習を重ね、仲間とともに創り上げた経験は、学びの喜びを再確認する貴重な機会となりました。地域とともに歩むことぶき勧学院の姿勢が、これからも多くの人に希望を届けていくことでしょう。

畑で学ぶ食と命　～笑顔いっぱいサツマイモ収穫体験～　【山梨市立日下部小学校】

掘り方の説明を真剣に聴く児童

春から育ててきたサツマイモを、いよいよ収穫の日

10月20日（月）、2年生57人が、市から提供された学校前の畑でサツマイモ「紅あづま」の収穫を行いました。この畑は、かつて耕作放棄地でしたが、「NPO法人都市農村交流支援センター」の野菜名人などの協力で再生され、児童たちが農業を学ぶ「教育ファーム」として活用されています。春から苗植え、種まき、草取り、水やりを続けてきた児童たちは、自分の苗に名札を付けて大切に育ててきました。

サツマイモが出てきました

笑顔と歓声あふれる収穫体験

収穫では「イエーイ！」と声を上げながら土を掘り、大きなイモが出てくると互いに喜び合う姿もありました。「一緒に掘ろう」と声をかける場面も見られました。ナメクジやトカゲに出会って大喜びする様子もありました。「いろいろな大きさがあって楽しかった！」と話す児童もいました。収穫したサツマイモは、後日みんなで、やきいもにして食べました。

地域とともに育む学びの場

野菜名人と一緒に土づくりから取り組んだ経験は、児童たちにとって忘れられない学びとなりました。地域の力でよみがえった畑は、児童たちの健全育成と食育を支える貴重な場となっています。

みんなで一生懸命掘る

野菜名人と力を合わせて

ふるさとの味を未来へつなぐ　～ころ柿集会～　【甲州市立井尻小学校】

11月7日（金）、甲州市立井尻小学校で、地元の特産品「ころ柿」について学ぶ「ころ柿集会」が開かれました。全校児童約60人が参加し、地元農家や保護者ボランティア、JA職員、甲州市・山梨市の市役所など多くの協力を得て実施されました。

皮むき対決

皮むき手順を児童が説明

どの児童も皮むき名人

皮むき対決で大盛り上がり！

体育館では、校長先生がころ柿の調査結果について発表し、その後代表児童3チームと先生チームによる皮むき対決がスタート。大きな声援が響き渡り、会場は熱気に包まれました。

工夫を凝らした素晴らしい内容の発表

発表と体験で深まる学び

続いて、児童による「ころ柿ができるまでの手順や歴史」の発表があり、さらに若い世代に不人気な現状を踏まえた「もっと美味しくなる」食べ方の提案も披露。ヨーグルトやチョコレートとの組み合わせなど、ユニークなアイデアに会場からは「面白い！」と笑顔が広がりました。

ベランダに干す

その後は、自分の柿の皮むきに挑戦。むいた柿には干すための紐を通し、カゴに入れて準備完了。干された柿は各教室のベランダで乾燥させ、12月中旬に完成予定です。児童は家庭に持ち帰るほか、地域の方々にも配る計画です。

大収穫

ふるさとの味を地域を中心に大人から子どもに継承するこの取り組みは、世界農業遺産（R4年7月認定）の選定理由としても大きな意味を持ち、児童たちに地域への誇りを育む貴重な学びの場となりました。

収穫で広がる笑顔と学び　～異校種の交流活動～　【笛吹市立石和東小学校、山梨県立高等支援桃花台学園】

一緒に育てたサツマイモ、ついに収穫！

桃花台学園の生徒の説明は分かり易い

協力してマルチを取る

11 月４日（火）、笛吹市立石和東小学校の１年生と山梨県立桃花台学園農業生産コースの２年生が、学校前の畑でサツマイモ掘りを行いました。

交流は４月、桃花台学園の生徒が苗植えの方法を教えたことから始まり、当日は小学生が作業しやすいように学園生が前準備をして臨みました。児童たちは水やりや草取りを続け、サツマイモが顔を出すと「やった！」と大歓声。ナメクジや虫を見つけて大はしゃぎする場面もありました。

学びと遊びで深まる交流

協力してイモを掘る

すっごい仲良し!児童と生徒

掘ったイモに感動する

アーチをくぐってお別れ

収穫後には、桃花台学園の生徒が栄養や保存方法、食べ方などを手書きパネルで分かりやすく説明。児童は興味津々で耳を傾け、「いっぱい採れてうれしかった」「みんなで遊べて楽しかった」と笑顔が広がりました。最後は仲良くなった児童と生徒で鬼ごっこが始まり、畑の中を走り回る姿も。学園生は「サツマイモをたくさん食べて、私たちのように大きくなってください」と声をかけ、和やかな雰囲気に包まれました。

収穫、学び、そして交流。この体験は、児童・生徒たちにとって忘れられない一日となりました。

歴史を胸に未来へ羽ばたく　～創立 150 周年記念式典～　【甲州市立菱山小学校】

地域とともに歩んだ 150 年を祝う

校旗贈呈

元気いっぱいの発表

会場が一体となった合唱

工夫を凝らした発表ばかり

11 月８日（土）、菱山小学校体育館にて、創立 150 周年記念式典が開催されました。市長や教育長をはじめとする来賓、保護者、卒業生、地域の方々が集まり、全校児童とともに節目を祝いました。明治８年の創立以来、菱山小は地域の教育拠点として、子どもたちの学びと成長を支え続けてきました。

児童発表と記念講演で広がる夢

式典では、各学年が学校や最寄りの勝沼ぶどう郷駅の歴史、地域産業であるぶどうの歴史、緑の少年隊の活動などを発表。児童たちは地域の方に話を聞いて学んだことを堂々と披露しました。全校児童による合唱では、会場が一体となり、温かな雰囲気に包まれました。

記念講演では、菱山小卒業生でアトランタオリンピック競歩に出場した佐藤由佳さんが「夢を持つ大切さ～オリンピックの夢舞台へ～」と題して講話。「努力を続けることで夢は叶う」という言葉に、児童たちは真剣な眼差しで耳を傾けていました。

記念講演の佐藤由佳さん

大空にバルーンが舞う

閉式後には、校庭でバルーンリリースが行われ、色とりどりの風船が青空に舞い上がると、歓声と拍手が響き渡りました。『150 年の歴史を受け継ぎ、仲間を大切にしながら、それぞれの夢に向かって羽ばたいてほしい』そんな願いが込められた一日となりました。

児童が感じた“今の幸せ”　～戦争について考える特別授業～　【甲州市立塩山北小学校】

語り部が伝える戦争体験

山梨むかし語りの会の藤巻さん

「かみず」の語り

11 月 11 日（火）、「戦争について知ろう」をテーマにした特別授業が行われました。全校児童を前に、山梨むかし語りの会の藤巻さん（地域在住）が、昭和 20 年の甲府空襲を体験した記憶を語りました。

甲府の街が真っ赤に燃え上がる様子、食べ物がなくサツマイモやいなごを食べたこと、疎開先で物置に 2 家族で暮らしたことなど、当時の厳しい生活を生々しく伝えました。さらに、甲府空襲を描いた本「かみず（桑の実）」の絵を画面に映し、自身の体験と重ねながら語り、児童はまるでその場にいるかのように聞き入っていました。

児童の質問と平和への思い

児童の話を真剣に聞き、答える藤巻さん

児童から「一番辛かったことは？」と質問されると、藤巻さんは「家で育てたウサギを学校に連れて行き、帰りには肉を持って帰った」と答え、児童は驚きの声をあげました。最後に「平和ってどんなこと？」と問いかけられ、児童は「元気に遊ぶ」「みんなで勉強できる」「給食が食べられる」などと答えました。藤巻さんは「当時はそれができなかった」と語り、今の幸せをかみしめるように伝えました。

戦争の恐ろしさを改めて知り、「戦争は絶対に起こしてはいけない」という思いを深める時間となりました。

地域の仕事を知ろう！　～職場見学会～　【笛吹市立境川小学校】

普段入れない工事現場で大興奮の学び

11 月 13 日（木）、1 年生 16 人が、学校から徒歩 10 分ほどの建設工事現場を訪れ、建設業の仕事について学びました。この活動は、株式会社中村工務店による協力で、児童たちに“まちの暮らしを守る建設業”への理解を深めてもらうこと、そして建設業の魅力を伝えることを目的として実施されました。

行く途中に幼稚園の先生に会う

働く車を大声で応援

はじめに、中村工務店の中村さんから、建設業の役割や現場での仕事についてのお話があり、児童たちは真剣な表情で耳を傾けていました。その後、普段は入ることのできない工事現場を見学し、山梨県で最大級のショベルカーが土を運ぶ作業風景を間近で見ました。「ワー、すごい！」「がんばってー！」「バック、バック！」と大きな声援が飛び交い、現場は児童たちの熱気に包まれました。

ショベルカー体験やドローン実演に笑顔いっぱい

「おうちの中みたい」と喜ぶ

友達の重機操作に大喜び

「ショベルカーはダンプを何回でいっぱいにできるか」というクイズには、児童が楽しそうに答え、笑顔があふれました。続く乗車体験では、一人ひとりがショベルカーに乗り、操作を体験。たくさんの土をすくうことができた友達に、「すごい！〇〇ちゃん！」と歓声が上がり、仲間同士で喜び合う姿が見られました。

ドローン撮影を楽しむ

最後にドローンの飛行実演が行われ、空からの記念撮影を実施。児童たちは手を振ったり跳びはねたりしながら、貴重な体験を楽しんでいました。今回の見学を通して、建設業への興味がより高まり、地域の仕事を知る良い機会となりました。

安全に使う力を育む３日間　～インターネット利用講座～　【山梨市立山梨南中学校】

３日間・朝の 15 分で学ぶインターネットの基礎

11 月 17 日（月）から 19 日（水）までの３日間、全校生徒を対象にインターネット利用に関する講座を行いました。朝の 15 分間を活用し、合計 45 分の学習時間で「インターネットとは」「インターネットの歴史と革新」「インターネットの危険性」の３つのテーマを実施しました。講師は株式会社ジンズの相澤俊太さんが務め、１つの学年は多目的室で直接参加し、他学年は教室からリモートで受講しました。

誰もが分かり易い丁寧な講義内容

全生徒が真剣に集中する

リモート講義も真剣に受講

社会とつながり、考える力を深める

講座では、３つの講演に対応した学習シートを使いながら、自分自身や周囲の人の安全を守りつつインターネットを便利に活用する視点を学びました。相澤さんにとっても、生徒と関わる機会は貴重であり、実際に働く大人の話を聞くことで、社会で活躍する人とのつながりを感じられる時間となりました。生徒からは「３回に分けて話を聞いたことで、帰宅後スマホを使いながらじっくり考えて講義内容を振り返り、翌日の講義に臨むことができました」という声もあり、学校・地域・企業が連携しながら学びを深める取り組みとなりました。

メモを取りながら、頷く生徒

みんなで柵を塗ろう　～「景観改善事業」ペンキ塗りボランティア～　【山梨市役所 都市計画課】

親子や地域住民が協力して白い柵を茶色に

11 月 15 日（土）、笛吹川フルーツ公園南側通路で、山梨市役所都市計画課による景観改善事業「風景ペイント～みんなで柵を塗ろう～」が行われました。市長・副市長・教育長をはじめ、市役所職員、親子連れなど多くの地域住民が参加し、ペイントショップ佐野さんの協力のもと、白色だった柵を景観配慮色である茶色に塗り替えました。開会式後にはペンキの塗り方が説明され、一家族につき二区画を目安に作業がスタートしました。

親子で楽しく作業が進む

作業が景観への理解と地域のつながりを広げる場に

参加者には「良い景観とは、見たいものが見やすく、見せたくないものは目立たせないこと」といった説明もあり、景観づくりへの理解を深めながら作業が進みました。

作業中には作業する横を通行する観光客がボランティアに声をかけ、自然に会話が生まれるなど、現場は温かい空気に包まれました。参加者の中には、「久しぶり」「何年生になった？」と再会を喜ぶ声も聞かれ、地域の交流の場にもなりました。「上手だね～」と褒められた子どもたちは楽しそうに刷毛を動かし、完成した柵を見て「すごくいい」「公園に馴染んでいる」と満足げに眺めていました。

今回の取り組みは、景観を守りながら地域がつながる貴重な機会となりました。

みんなで協力して白い柵が、すばらしい景観の茶色い柵になった